

JBA 総発第 26067 号  
2014 年 11 月 10 日

バスケットボールに関わる皆様  
(ステークホルダーの皆様)

公益財団法人日本バスケットボール協会

【重要】FIBA への回答書（要旨）公開について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、当協会（JBA）の活動に対して格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度は、統一プロリーグ問題や FIBA からの制裁等各種報道がなされ、皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけしたことににつきまして、深くお詫び申し上げます。

さて、今回の国際バスケットボール連盟（FIBA）からの指摘事項に対する回答内容につきましては、10 月 29 日（水）の臨時理事会での承認を経て、10 月 31 日（金）に提出いたしました。

回答書の要旨（①JBA のガバナンス強化、②男子日本代表チームの強化、③統一リーグ）につきまして、別紙のとおり公開いたします。

JBA といたしましては、大変厳しい環境ですが「選手第一主義（プレイヤーズ・ファースト）」を主眼とし、将来の日本バスケットボール界の発展のために一致団結して、引き続きこれらの課題に対する協議・対応に全力を尽くします。

皆様方におかれましては、上記ご理解のうえ、今後とも JBA へのご支援をよろしく願い申し上げます。

敬具

## ——FIBA 指摘事項への回答書（要旨）——

### 【はじめに】

#### ●FIBA からの指摘

- ①2006年に開催された男子世界選手権大会（さいたま大会）は、大会としては大成功との評価を得た。しかしながら、この大会以降の男子日本代表チームの強化は発展が見られず、逆に下降線を辿っている。
- ②2009年以降、bjリーグがJBA傘下外で併存している問題を指摘されていた。
- ③国内リーグ問題は、2010年に当時のJBLとの統一を前提に、JBAがbjリーグを公認してJBAの傘下内となった。しかし、FIBAからは競技ルールが異なること、2リーグが併存することを、FIBAの定款・内規違反としてリーグ統一の必要性を指摘され続けてきた。

上記を踏まえ、1) JBA ガバナンスの強化、2) 男子日本代表チームの強化、3) 統一リーグの3点について、JBAの方向性をまとめた。

### 1) JBA のガバナンス強化について

#### ●総括

- ・日本のバスケットボールを主導するべきJBAが、国内のファミリーとビジョンは共有しているものの、具体的な展開には至っていない。
- ・課題は明らかになったので、今後具体的な解決策の策定を進めていく。

#### ●これまでの作業

- ・コンサルティング会社に依頼し、協会組織／オフィスを中心に課題の洗い出しおよび施策検討を実施。
- ・地域との連携・機能強化の観点から「地域強化対策検討委員会」を設置し、ブロック協会の機能化を実施。

#### ●今後の方向性

- ・JBAとして傘下団体と共有するビジョンを再構築し、全関係者の意識改革を行う。
- ・ビジョンを達成するため、都道府県協会・各種連盟と連携できる組織形態や関係性の見直しを行い、信頼関係の再構築に取り組む。
- ・FIBAの定款との整合性を再確認し、実行に移す。
- ・スピード感と事業性の視点を反映させる意思決定機構（理事会・評議員会）の改革を行う。
- ・バスケットボールの成長・発展に向けて、ビジョン実現のための事業の再構築と、事業遂行を支えるプロフェッショナルなオフィス体制の構築を行う。

### 2) 男子日本代表チームの強化について

#### ●総括

- ・2020年の東京オリンピック出場および2024年以降に向けての男子強化プランを策定し、実

行に移していくことが求められており、短期／中期／長期と分けて施策を立案済み（施策を順次実行中）。

●これまでの作業

- ・男子強化戦略委員会、代表委員会を組織し、そのメンバーを中心に男子強化活動計画を策定し、具体策の立案およびその実行に向け取り組んでいる。
- ・施策は JBA 単独で実施できるものから順次着手している。

●今後の方向性

- ・FIBA の国際カレンダーと国内カレンダーの調和を図る。  
例えば、ウインターカップを選手権化し、夏季シーズンに実施される FIBA の国際大会を優先する環境を作る。
- ・学校教育の中での活動により中学 1・2 年、高校 1・2 年、大学 1・2 年の実戦経験が少なくなる現状に対処するため、年齢カテゴリー区分の採用（例えば国民体育大会における U-16、U-15 年齢変更）等を実施する。
- ・アンダーカテゴリーの強化については、専任コーチを置いて一貫指導・活動量の確保等を図り、選手選考についても、第三者の立場で実施することで公正性を確保する。
- ・年代別の育成方針を作成し、全国の指導者への周知・徹底を図る。またそれに合わせ、ルール（や大会要項）の変更を実施する。

### 3) 統一リーグについて

●総括

- ・新リーグ組織委員会（JBA・NBL・bj リーグ各代表者、チーム関係者、有識者）で統一プロリーグに向けて議論を進め草案を作成してきたが合意に至っておらず、今後も継続的に協議していく。

●これまでの作業

- ・7月に新リーグ組織委員会を発足して以降、毎週精力的に議論を実施し、「統一プロリーグ創設にあたっての草案」を作成。
- ・新リーグ運営法人のスキームについては、JBA と bj リーグで議論し、検討。

●今後のアクション

- ・これまでの議論の後半において新リーグの位置づけに変化が見られたため、その位置づけを再整理する。
- ・統一に向けての協議は継続し、現在課題となっている参加要件・新リーグ運営法人のスキームについては再検討を行う。

以上